

## 亶理町の結果概要について

## ■調査の概要

## 1 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3)そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## 2 調査実施日 令和3年5月27日(木)

## 3 調査対象学年 小学校第6学年(296名)、中学校第3学年(272名)

## 4 調査事項

(1)教科に関する調査 小学校6年生:国語,算数 中学校3年生:国語,数学

## (2)質問紙調査

- ①児童生徒:学習意欲,学習習慣,生活習慣,規範意識,自己有用感等
- ②学校:授業改善,生徒指導,教科の指導方法,学校運営,教職員の資質向上,家庭や地域との連携等

## ■教科に関する調査結果の概要

○小学校において、国語の平均正答率は全国平均を2.7ポイント、算数は6.2ポイント下回っています。
○中学校において、国語の平均正答率は全国平均を0.6ポイント、数学では4.2ポイント下回っています。
○小・中学校の国語における平均正答率は、平成31年度に比べて全国とのかい離は小さくなっており、改善傾向が見られます。一方で、文章からもの見方や考え方を抜き出したり、自分の考えを書いたりすることには課題が見られることから、授業の中で「書く活動」を位置付け、指導の工夫改善を図っていきます。
○小学校の算数は、基礎的な知識・技能の定着に課題が見られることから、繰り返し学習を基本としながら、「体験的に学ばせること」「興味・関心・意欲を高めること」「個に応じた指導を充実すること」などに配慮した学習内容や方法の工夫を図っていきます。
○中学校の数学は、求め方の説明を記述する問題での正答率が低く、無解答率も高いことから、数学的な考え方を育成するための指導が必要であり、日常生活と数学を使い問題を解決する場面を意図的に位置付けるなどの指導の工夫を図っていきます。

## 1 令和3年度の平均正答率(全国・宮城県・亶理町)

対象	教科	全国	宮城県	亶理町	全国比
小学校	国語	64.7	63	62	-2.7
	算数	70.2	68	64	-6.2
中学校	国語	64.6	65	64	-0.6
	数学	57.2	55	53	-4.2

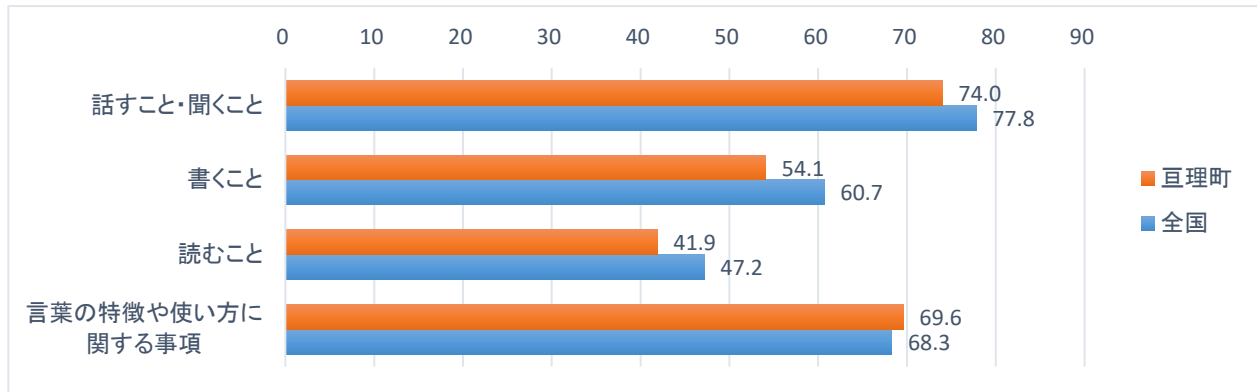
※平均正答率とは、各児童・生徒の全設問における正答数の割合(正答率)を足し合わせ、児童・生徒の人数で割った値です。

## 2 領域別の到達状況

### (1) 小学校

#### 【国語】

【平均正答率(%)】



(◎良好:90%以上 ○概ね良好:80~90%未満 ◇基準に到達:70~80%未満 ▽十分とはいえず:60~70%未満 ▼不十分:60%未満)

#### <話すこと・聞くこと>

◇: 目的に応じ、話の内容が明確になるようにスピーチの構成を考える[1一]

◇: 目的や意図に応じ、資料を使って話す[1三]

▽: 資料を用いた目的を理解する[1二]

#### <書くこと>

▼: 自分の主張が明確に伝わるように、文章全体の構成や展開を考える[3一]

▼: 目的や意図に応じて、理由を明確にしながら、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する[3二]

#### <読むこと>

◇: 文章全体の構成を捉え、内容の中心となる事柄を把握する[2一]

▼: 目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける[2三]

▼: 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約する[2四]

#### <言葉の特徴や使い方に関する事項>

○: 思考に関わる語句の使い方を理解し、話や文章の中で使う[2二]

○: 学年別漢字配当表に示されている漢字「転がってる」「原因」を文の中で正しく使う[3三(1)アエ]

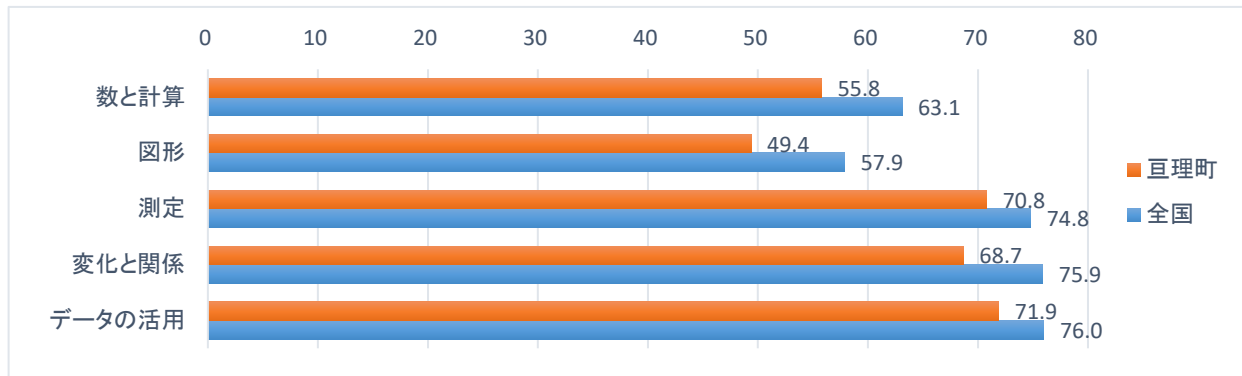
▽: 文の中における主語と述語との関係を捉える[3三(2)イ]

▼: 学年別漢字配当表に示されている漢字「積み重ね」を文の中で正しく使う[3三(1)ウ]

▼: 文の中における修飾と被修飾との関係を捉える[3三(2)オ]

## 【算 数】

【平均正答率(%)】



(◎良好:90%以上 ○概ね良好:80~90%未満 ◇基準に到達:70~80%未満 ▽十分とはいえず:60~70%未満 ▼不十分:60%未満)

### <数と計算>

- ◇:示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断することができる[4(1)]
- ▼:二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる[1(1)]
- ▼:商が1より小さくなる等分除(整数)÷(整数)の場面で、場面から数量の関係を捉えて除法の式に表し、計算をすることができる[4(2)]
- ▼:小数を用いた倍についての説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述できる[4(3)]

### <図形>

- ▽:複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる[2(2)]
- ▼:三角形の面積の求め方について理解している[2(1)]
- ▼:複数の図形を組み合わせた平行四辺形について、図形を構成する要素などに着目し、図形の構成の仕方を捉えて、面積の求め方と答えを記述できる[2(3)]

### <測定>

- :条件に合う時刻を求めることができる[1(4)]
- ▽:複数の図形を組み合わせた図形の面積について、量の保存性や量の加法性を基に捉え、比べることができる[2(2)]
- ▼:二つの道のりの差を求めるために必要な数値を選び、その求め方と答えを記述できる[1(1)]

### <変化と関係>

- :速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察することができる[1(2)]
- :速さと道のりを基に、時間を求める式に表すことができる[1(5)]
- ▼:速さを求める除法の式と商の意味を理解している[1(3)]

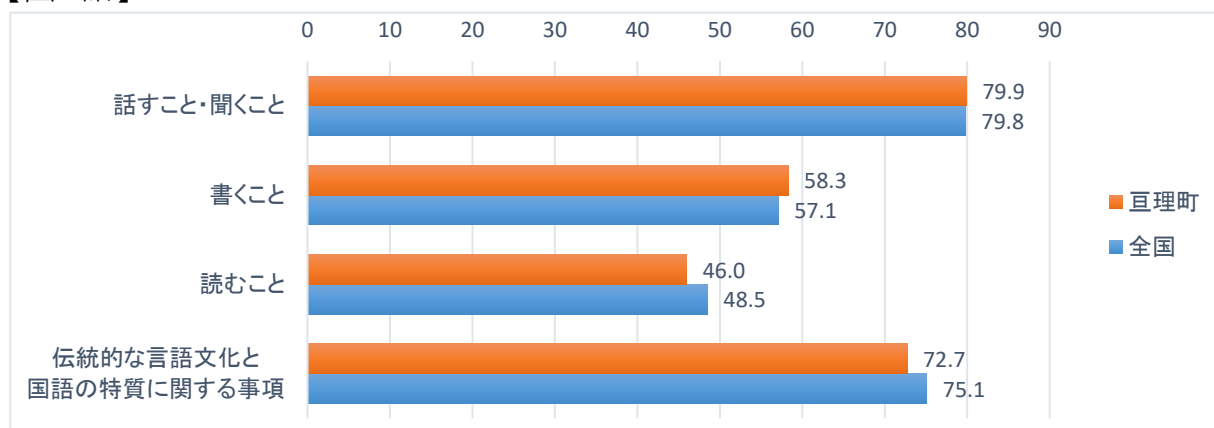
### <データの活用>

- ◎:棒グラフから、数量を読み取ることができる[3(1)]
- :棒グラフから、項目間の関係を読み取ることができる[3(2)]
- ◇:集団の特徴を捉えるために、どのようなデータを集めるべきかを判断することができる[3(5)]
- ▽:データを二次元の表に分類整理することができる[3(3)]
- ▼:帯グラフで表された複数のデータを比較し、示された特徴をもった項目とその割合を記述できる[3(4)]

## (2) 中学校

### 【国語】

【平均正答率(%)】



(◎良好:90%以上 ○概ね良好:80~90%未満 ◇基準に到達:70~80%未満 ▽十分とはいえず:60~70%未満 ▼不十分:60%未満)

#### <話すこと・聞くこと>

◎: 話合いの話題や方向を捉える〔1一〕

◎: 質問の意図を捉える〔1二〕

▼: 話合いの話題や方向を捉えて、話す内容を考える〔1三〕

#### <書くこと>

◇: 書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える〔2二〕

◇: 伝えたい事柄が相手に効果的に伝わるように書く〔4四〕

▼: 書いた文章を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く〔2一〕

#### <読むこと>

▽: 登場人物の言動の意味を考え、内容を理解する〔3三〕

▼: 文脈の中における語句の意味を理解する〔3一〕

▼: 場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する〔3二〕

▼: 文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ〔3四〕

#### <伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項>

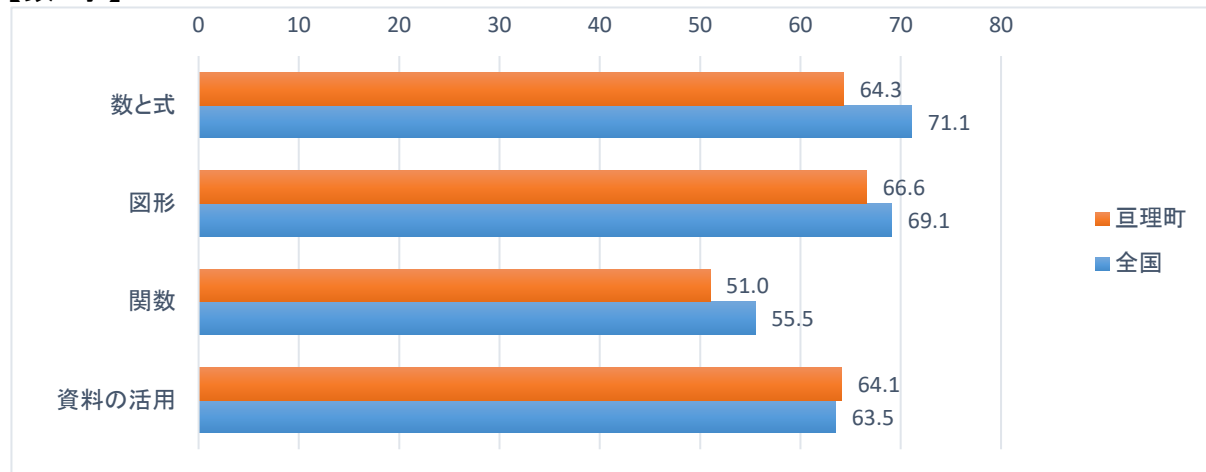
◎: 文脈に即して漢字を正しく読む〔4一〕

▽: 事象や行為などを表す多様な語句について理解する〔4二〕

▼: 相手や場に応じて敬語を適切に使う〔4三〕

## 【数 学】

【平均正答率(%)】



(◎良好:90%以上 ○概ね良好:80~90%未満 ◇基準に到達:70~80%未満 ▽十分とはいえず:60~70%未満 ▼不十分:60%未満)

### <数と式>

- :問題場面における考察の対象を明確に捉えることができる〔6(1)〕
- ◇:整式の加法と減法の計算ができる〔1〕
- ▽:具体的な場面で、一元一次方程式をつくることできる〔2〕
- ▼:目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することができる〔6(2)〕
- ▼:数学的な結果を事象に即して解釈し、事柄の特徴を数学的に説明することができる〔6(3)〕

### <図形>

- ▽:扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している〔3〕
- ▼:平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明することができる〔9(1)〕
- ▼:錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を理解している〔9(2)〕
- ▼:ある条件の下で、いつでも成り立つ図形の性質を見だし、それを数学的に表現することができる〔9(3)〕

### <関数>

- ◎:与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることができる〔7(1)〕
- ▼:関数の意味を理解している〔4〕
- ▼:事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる〔7(2)〕

### <資料の活用>

- :ヒストグラムからある階級の度数を読み取ることができる〔8(1)〕
- ◇:与えられたデータから中央値を求めることができる〔5〕
- ▼:相対度数の必要性和意味を理解している〔8(2)〕
- ▼:データの傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができる〔8(3)〕

### 3 児童・生徒質問紙調査の結果の概要（※「児童生徒の回答」の一部抜粋）

- 「自分には、よいところがある」の項目について肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに県平均を下回っています。
- 平日の家庭学習の時間について、小学生で1時間以上学習している割合は県平均を上回っていますが、中学生では下回っています。
- 平日に30分以上読書をしている割合は、県平均を上回っています。
- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表している」と肯定的な回答をした児童生徒の割合は県平均を下回っています。
- 「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」の項目について肯定的な回答をした割合は、小・中学校ともに県平均を上回っています。

